



三到図書館 ニュース

2017年10月発行
No.81

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ
- ◇貴重書紹介
- ◇学生の図書館活用
- ◇選書ツアー報告
- ◇読書運動プロジェクト
- ◇図書館学生イベント
- ◇図書館からのお知らせ

📖 巻頭メッセージ

自然科学に興味を持とう

リベラルアーツ学群教授 秀島 武敏

私は小さいころから本が好きでした。マンガを含めいろいろな本を読みました。テレビをみることも好きです。これらを通じていろんなことを学びました。

いまの学生は新聞や本を読まないといわれています。皆さん本を読みましょう。パソコンやスマホからインターネットを通じていろんな情報を入手できます。しかし、断片的な知識ではなく本格的な知識を得るためには本が必要です。

さて私の専門は化学です。私が学生の頃、四大公害病と言われた水俣病、第二水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくが問題になっていました。このころは公害と言っていましたが、この公害に関する記事が毎日のように新聞の紙面に出ていました。工業地帯の空気が汚染され、きれいな空が見えなくなったり、近くの河川が汚染されて、それより以前は魚を捕ったり、泳いだりしていたのができなくなったりしました。汚染で隅田川の花火大会がしばらく行われなかったことなど皆さんには想像もつかないでしょう。現在中国などで問題となっていることが日本でも現実だったので。その頃はPM2.5という言葉はまだありませんでした。これらの問題は住民運動、技術の発展、法律の制定などで解決されてきました。

次に大気中の二酸化炭素量の増加による地球温暖化、酸性雨、オゾンホールなどの問題が起こりました。またDDT、BHC、パラチオン剤などの農薬、エアコンなどに使われたフロン、熱媒として用いられたPCBなどは環境に悪影響を及ぼすということで現在使われなくなっています。これらの物質は発明されたころは夢のような物質であり、豊かな暮らしに役立つと考えら

れていたのですが、使用が広がるにつれて人や環境に悪い影響が表れてきて、使用されなくなりました。公害という代わりに現在では環境問題と言われています。このように悪いイメージがある化学ですが、現在のわたくしたちの生活を支えているのは化学です。



普段何気なく使っている洗剤、薬、電池および半導体、太陽電池などは化学の知識なしではできません。酒、みそ、醤油、チーズ、ヨーグルトなどの発酵食品製造も化学反応に基づいています。飲み物の容器に用いられているペットボトルのペットとは「ポリエチレンテレフタレート (polyethylene terephthalate)」の略です。便利なのでよく使われています。これも化学の恩恵です。スマホやパソコンなどの液晶もそうです。このように化学は現代の便利で豊かな生活に貢献しているのです。

化学は難しくなるべく避けて通りたいと思っている人も多いと思います。しかし、わたくしたちの身の回りはすべて化学物質です。料理も化学なのです。化学のみならず、もっと範囲を広げて自然科学の知識は今後もっと必要になると思います。インターネットで自分に興味あることだけを情報としてとっているだけでは困ることが出てきます。啓蒙書や優しく書かれた本もあります。皆さんもっと本を、特に自然科学に関する本を読みましょう。

本学所蔵の「万国博覧会」関係資料について

教職センター教授・博物館学芸員課程主任 浜田 弘明

博物館学と万国博覧会資料

本学では、1995年度から全学に向けて博物館学芸員課程が開講され、今年で22年目を迎える。これまでの学芸員資格取得者は1,000人を超え、現場の博物館で働く卒業生も少なくない。さらに、2007年度のリベラルアーツ学群（LA学群）の発足とともに、資格課程とは別に、全国でも珍しい博物館学専攻（副専攻）が発足し、ゼミや卒論も開かれている。

LA学群発足10年目を迎えた2016年度からは、博物館学専攻はメジャー化され、博物館学を本格的に学べる大学として、少しずつ認知されるようになってきた。また、その間の2002年度には、戦後日本の博物館学の基礎を築いた私の恩師でもある、鶴田総一郎所蔵の全資料が本学に寄贈されている。その後、科研費等を得て整理を進め、2008年度に開室した桜美林資料展示室において「鶴田文庫」として公開を開始し、2010年にはその所蔵図書目録も刊行している。

このように、博物館学の教育・研究環境が整備されていく中で、図書館においても博物館に関わりの深い、万国博覧会関係資料（以下、万博資料）の充実に努めてきている。最初のきっかけとなったのが、2003年度文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金の採択に伴い購入した、21件全90冊の資料群である。その後2014年度には、図書館予算で2件4冊の資料群を追加購入しているが、2016年度に再び文科省から同補助金を得て、20件全34冊を購入することが出来た。本学が所蔵する万博資料は120冊を超え、国内の大学図書館でも屈指のコレクションとして形成されつつある。

博物館と博覧会

国際的に博物館は、資料を有し収集・保存・研究・展示等を行う、公衆に開かれた非営利の常設機関とされているが、博覧会は常設されたものではないため、概念としては別個のものとして考えられている。しかし、近代日本の博物館の源流を眺めてみると、博覧会にたどり着くことが出来る。

日本で最も歴史のある東京国立博物館の創立は1872（明治5）年であるが、当時の博覧会事務局が、同年春に東京の湯島聖堂の大成殿を会場に開催した博覧会「文部省博物館」がその起源となっている。このころは、まだ日本語として博物館という言葉は定着していない時期であるが、博覧会は好評を得たため、その後常設化されて博物館となったのである。

今日も国内で、さまざまな博覧会が開催されているが、そのうち万博は、国際博覧会条約（1928年パリにて採択）に基づいて開催されている。世界最初の万博は、クリスタルパレス（水晶宮）が建設された1851年開催のロンドン万博である。



日本が万博に初参加したのは、1867年開催のパリ万博で、徳川幕府と佐賀鍋島・薩摩両藩が出展している。政府としての正式初参加は、明治政府が出展した1873年開催のウィーン万博となる。このウィーン万博には、前年に湯島聖堂で開催された博覧会資料の一部も出展されている。その後、パリで4回目に開催された1889年の万博の際にはエッフェル塔が建設され、1900年にもパリで5回目の万博が開催されている。

20世紀に入ると、第二次世界大戦の激化により、万博が中止される時期もあった。日本最初の万博は、紀元2600年を記念して1940年に東京で開催する計画があった。イタリアにおいても、1942年にムッソリーニがローマ万博を計画していたが、いずれも幻の博覧会に終わった。その後、日本で最初の万博は1970年に大阪で開催され、1985年にはつくばで科学万博が、2005年にも愛知で愛・地球博が開催されている。

本学の万博コレクションの特色

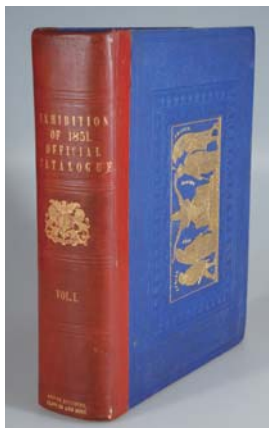
19世紀後半から20世紀初頭にかけての万国博覧会の記録は、それぞれの時点における参加各国の外向けの「顔」のデモンストレーションであり、今日の歴史研究の多様な視点から、宗主国の植民地文化の評価・位置づけをはじめ、さまざまな読解や利用が可能である。

本学の万博コレクションには、1851年に開催された第1回ロンドン（イギリス）万博の公式報告書全6巻が含まれている（写真1）。この時に建設された、クリスタルパレス（水晶宮）の内観と外観を描いた「水晶宮の眺め」は、12枚の絵をアコーディオン式のアルバムに収めた形になっている（写真2）。

日本政府初参加となる、1873年のウィーン（オーストリア）万博関連資料には、前年に国内で撮影された出展資料の写真がある（写真3）。本資料は、明治期の日本の国際化を理解するための手がかりともなろう。この前後の、1867年の第2回パリ万博、1876年のフィラデルフィ

ア（アメリカ）万博、1878年の第3回パリ万博と続く資料の中で、最も目を引くのが、1878年の「パリ万博風景ジグソーパズル」（全3枚）である（写真4）。

その他、1897年のブリュッセル（ベルギー）万博、1889年の第4回パリ万博、1893年のシカゴ（アメリカ）万博、1900年の第5回パリ万博、1904年のセントルイス（アメリカ）万博、1915年のサンフランシスコ万博、1933年のシカゴ（アメリカ）万博、1935年のヌーヴォー・グラン・パレ（パリ）万博、幻に終わった1942年のローマ（イタリア）万博資料（写真5）も含まれており、当時の欧米の文化を知る手がかりとなる資料群となっている。



【写真1】

『Official descriptive and illustrated catalogue : Great Exhibition of the Works of Industry of All Nations, 1851 v.1』



【写真2】 『The royal album of Crystal Palace views』



【写真3】

『Four views of the exhibition hall and exhibits submitted for The Vienna World Exposition of 1873』

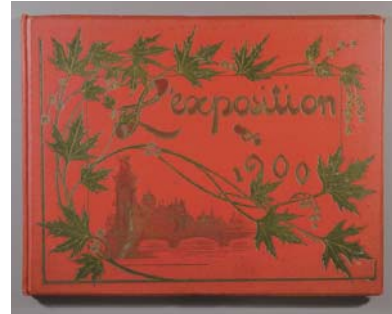


【写真4】 『Les nations en jeu de patience』



【写真5】

『Esposizione universale di Roma : MCMXLII anno XX[0] E.F.』



【写真6】

『L'Exposition de 1900 : photographies et aquarelles de ses principaux monuments Éd. Unique』

1900年のパリ万博資料は、本コレクションの中核を成し、最も点数が多い（写真6）。本万博は、近代国家として形成を確立した列強の自己顕示・開示の場としてとりわけ名高いものであり、学際的比較研究の結節点として活用を図ることを可能とする資料となる。万博は、各国の近代化を可視化したものであり、日本が受けた衝撃は近代化への原動力となっただけでなく、今日の科学万能主義を支えるイデオロギーともなっている。この科学万能主義への批判は、現在、環境問題や人権問題の視点からも必要とされるものである。博物館学や歴史学を専門とする教員・学生のみならず、環境科学や哲学、さらには宗教学・キリスト教を研究する教員・学生の皆さんにも活用されることをお勧めしたい。

学生の図書館活用方法

リベラルアーツ学群3年 末廣 真奈さん



【ぼっちのすゝめ】

図書館って怖くないですか？職員の人も何だか不愛想で話しかけづらいし…。私は、本は好きですが図書館は苦手です。しかしそんなことも言ってもらえません。口語表現のテーマが決まらない！私は図書館のレファレンスカウンターに駆け込みました。ここは勉強の相談なら何でもできます。このサービスには何度も助けられました。職員さんや学生サポーターさんに話しかけるのは勇気が要りますが、大丈夫。3、4回アタックすれば強い味方が現れます。どんなに質問責めしても、ちゃんと教えてくださいますよ。例えば、ぶっちゃけ検索の仕方からわかってないとか（私のこと）。

さて、私が図書館で必ず来るところといえば、新着コーナーです。私はここが大好きで、いつも仁王立ちして眺めています。職員さんの英知が結集された選りすぐりの本たち。どれも私のツボを押さえているのです。まさに今流行っているミスターな本から、各分野最新の専門書、普段手に取らない図鑑まで、一気に視野が広がります。「そう、実はこういう本読みたかった！」という本に出会えます。

ところで、桜美林の図書館の階段、疲れませんか？入るまでも階段、入ってからも階段。体調悪いときなどは正直しんどい。…という話を職員さんにしたら、体調のことを伝えれば、係の人が本を探して取ってきてくれるそうです。これはありがたいです。なぜなら、私は病気をしているからです。私は人より体力がなく、館内を歩き回るのが辛い体調のときも多いです。大学に来られる日も少ないので、勉強に困ったとき相談する場所や、安心できる居場所をつくるのは大変でした。そんなとき頼りになるのが図書館です。ある職員さんが「図書館は一人で来ても恥ずかしくない場所」と仰っていました。堂々と一人でいていいのです。独りではなく一人でいられる大切な居場所、それが私にとっての図書館です。



リベラルアーツ学群3年 長谷川 直也さん



【図書館を活用しよう】

皆さんは三到図書館をどのくらい利用しているでしょうか？中には「まだ三到図書館を利用したことがないよ。」という人がいるかもしれません。そんな人達にこの記事で私なりの図書館の活用方法を少しでも参考にいただき、図書館の有用性を知ってもらいぜひ自分のために役立ててほしいと思っています。

私は本を借りたのは数えるほどしかありません。しかし、本とは無関係の用事でしょっちゅう図書館を利用しています。

例えば、課題の作業。私は集中力の続かない人間で、自分の部屋で作業をしているとついつい他の事に気が移ってしまい、全く進行しないということがよくあります。しかし、三到図書館を利用すればそれを気にする必要がありません。静かで、空調が効いていて、ゲームなどの甘い誘惑がない…これほど作業がはかどる環境は中々ないと思います。また、図書館ではノートパソコンの貸し出しも行っているのも、調べものがあるインターネットを使うもよし、豊富にある書籍から探すもよしで情報に困ることは滅多にないと思います。課題や勉強が中々はかどらなくて困っている方、ぜひ図書館を利用してください！

次に、映像資料の鑑賞。三到図書館には映像資料が視聴できるコーナーがあります。コーナーの存在は知っていても利用したことがない、という人は結構いるのではないのでしょうか？鑑賞の手続きはすごく簡単で、視聴できるものも専門的な知識を得られる学術的なものからディズニー映画やアクション映画のように空き時間に楽しく視聴できるものまであり、幅広いラインナップです。私も長い空き時間があれば映画を鑑賞することがあります。皆さんも空き時間があればぜひ利用してみてはどうでしょうか？

以上、2つの例を紹介しましたがここで紹介したこと以外にも、図書館は新聞の閲覧や、書籍の購入希望など学生にとって非常に有用なことができる場所です。

この記事で図書館に少しでも興味を持ってもらえれば幸いです。図書館を利用してよりよい学生生活を！

 選書ツアー報告

第4回「学生選書ツアー」を開催しました

2017年8月7日(月) @有隣堂町田モディ店



2017年度「学生選書ツアー」は、町田駅近くにある有隣堂町田モディ店にて開催しました。

選書ツアーとは、書店の本棚で実際に「本に触れて・見て・読んで」本学の図書館に蔵書として入れたら良いと思うものを選び、購入するものです。今回は7名の学生が参加しました。

選書ツアーを行った書店は、駅に近く、ビルのワンフロアということで、学術的、専門的な本より売れ筋の本が多かったのではないかと考えられました。参加した学生の中にも音楽、演劇や映画などに関する本や教育の本、人工知能関係の書籍などが少ないといった感想がありました。

そうした条件下ではありましたが、学生は大学図書館として置きたい本、他の学生も興味を持ってそうな本を慎重に選んでいました。選書ツアーは学生の視点で選書することが主眼ですので、教職員の選書とはまた別の魅力があると思います。

一つ気になったことは、せっかく選んだ本がすでに図書館に所蔵していたということです。主に文庫・新書ですが、図書館が文庫・新書を継続購読していることを知らない学生もいるのではないのでしょうか。

ということで、図書館が継続購読している文庫・新書についてご案内します。5階と6階小部屋に配架しています。

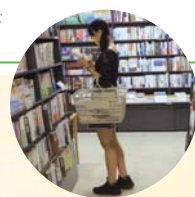
- ◆岩波文庫（請求記号：IB）：日本や世界の古典・名著を収録しています。
- ◆新潮文庫（SB）：日本の文学や海外の文学を収録しています。
- ◆講談社学術文庫（KGB）：人文・社会科学の分野の学術書を扱っています。
- ◆岩波新書（IS）・中公新書（CS）・講談社現代新書（KS）：多岐にわたる分野について知識が得られます。
- ◆日経文庫（NB）：文庫といっても新書サイズです。これも新しい知識や情報が得られます。
- ◆岩波ジュニア新書（JS）：中高生向けにわかりやすく解説したものです。入門書として大学生も利用できます。

毎月新しい文庫・新書を受け入れていますので、どんどん利用してください。

学生にとって有意義な本、大学図書館としてふさわしい本を苦勞しながら選びました。そうして選ばれた本が、三到図書館3階の「選書ツアーコーナー」に展示されます。

今回はどんな本が選書されたかご覧ください。そしてぜひご利用ください。

（図書館メディアセンター 主任 矢部 知美）

 選書ツアー参加者のみなさんの感想


リベラルアーツ学群4年 本間 万美子さん

図書館にどんな本が求められているのか、考えを巡らせながら本を選ぶという行為は想像以上に大変なことであるということを実感することができました。また、書店に勤める方の貴重な生の声を伺えたのも嬉しかったです。要望としては、昨年には行われたというポップ作成の講習が今年には行われなかったことが残念だったので、機会があれば、来年以降の選書ツアーで復活してほしいなと思います。



リベラルアーツ学群4年 守田 友輔さん

はじめて、選書ツアーに参加しましたが、思っていた以上に難しく悩みました。普段書店へ出かけるときは、自分が興味あるもの、読みたいと思う書籍を選び購入します。ですが、図書館に入れる本となると全く勝手が違いました。同じ学生とはいえ、他の学生がどんな本を読みたいと思っているのか、考えることなど今までなかったことです。また、折角選んできた本ですから、見た人が借りたいと思えるような棚を作って多くの学生・教職員の方に利用してほしいと感じました。



芸術文化学群3年 井上 花蓮さん

初めての選書ツアー参加でしたが、とても楽しかったです。最初は長いかなと思っていた時間も、本を選んでいるとあっという間に過ぎてしまいました。今回自分は、主に芸文の学生にとって役立つような本をテーマに探していたのですが、自分が好きだったり、興味のある分野はまだしも、自分が詳しくない分野についてのわかりやすい本を探すのが大変でした。ツアーの前に、事前調査をしておけばよかったと思っています。



リベラルアーツ学群4年 小川口 彩さん

どのような図書を選べば学生は読んでくれるのか、考えれば考えるほど選書が難しくなりました。全体的にもっと充実している（特に専門書）本屋さんだと、より多くの学生に読んでもらえそうな選書ができるのではないかと思います。選書時間も、今回の店舗だとちょっと短いぐらいがちょうど良いぐらいでしたが、もう少し大きい店舗で行うときにはもっと時間がほしくなると思います。この経験自体は、本屋さんの裏側を知ることができ、とても有意義なものでした。



読書運動プロジェクト

2017 年度春学期 桜美林大学図書館読書運動プロジェクト活動報告



新入生勧誘活動

図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）では今年も様々な新入生活動を行いました。毎年恒例となっている「公開ミーティング」や昨年から参加している「うえるびりんフェスタ」では、今年も多くの新一年生がブースへ来てくれました。また、LA学群の新入生向けに行っている「図書館ツアー」の中では読プロの紹介を行わせていただき、そこで興味を持った学生が実際のミーティングに参加もしてくれました！

読プロではこれらのように春学期が主な勧誘活動期間となっていますが、入会は通年、学年問わずいつでも歓迎しています！



図書館横での青空公開ミーティング



雨の日は崇貞館で公開ミーティング



読書会

読プロでは恒例の読書会、今年度は特に力を入れて行っています。5月にはシェイクスピア作『マクベス』、6月は桜庭一樹著『GOSICK』、7月には岩波ジュニア新書の研究をする目的で室井舞花著『恋の相手は女の子』を課題本にしました。

今年は11月に開催される「図書館総合展」に読プロがポスター展示で出展し、その題材として「読書

会」を取り上げることになっています。今後も見えて頂く方にわかりやすいよう読書会の記録をとり、かつ自分たちがやって楽しい読書会を目指します。



第二回読書会 『GOSICK』



読プロ棚

春学期の読プロ棚は4月に『新一年生向け活用ツール棚』、6月に『アウトドア棚』、9月から『LA33専攻おすすめ本棚』と、更新しています。

特に注目してもらいたいのが夏休み明け前から設置される『LA33専攻棚』！リベラルアーツ（LA）学群の2年生は秋学期から専攻選択を考える時期ですが、それに悩んでしまう方も多いのではないのでしょうか？ そんな時、図書館の読プロ棚を活用してもらえよう、各専攻に通ずる書籍を33専攻分集めました！！是非活用してみてください。



『LA33専攻おすすめ本棚』
要チェック！！



ブログ、ツイッターも是非ご覧ください！

ブログ <http://obirin-read.jugem.jp/>

twitter Twitterアカウント @obirin_reading

(リベラルアーツ学群3年 榊原 那月)

図書館学生イベント

データベース説明会～学生が企画・実施するイベントをラーニングコモンズで開催しました

<イベントの目的>

図書館では、利用者へのデータベースの啓蒙とラーニングコモンズ活用事例の多様化を図ることを主な目的として、2017年度春学期、学生が企画・実施する3回の「図書館学生イベント」を開催しました。

<実施体制とイベントの条件>

今回は初めての企画だったので、2017年度春学期に図書館のアルバイトとして登録された学生の中から企画イベントの実施に興味のある学生が担当者になりました。イベントについては、(1) データベースを啓蒙する説明会を行うこと、(2) 昼休みにラーニングコモンズで実施すること、の2点を図書館からの条件として提示しました。説明会の内容など詳細は、担当する学生がグループ毎に考えていきました。

<イベント実施まで>

イベントを担当する学生は、4月末から企画会議と準備作業、また説明会当日と後日のふりかえりを含め、定期的に計6回ずつグループ毎に図書館に集まりました。取り上げるデータベースと説明する内容、対象者、宣伝方法、役割分担等をグループで決めていき、ポスター作成と掲示、e-CampusやSNSへの掲示文作成、説明会当日のスライド作成等必要な準備を行いました。

<説明会の実施>

第1回『アナタの知らないデータベースの世界』

6月19日(月) 12:15～12:40

内容…新聞や論文以外のデータベースの紹介。主に電子ブック「NetLibrary」と「Maruzen eBook Library」について説明。



担当者：リベラルアーツ学群4年 鳥村 捺未
ビジネスマネジメント学群2年 肖 陽

第2回『英語学習のためのデータベースの使い方紹介』

6月20日(火) 12:15～12:40

内容…英語学習にぴったりのデータベースの紹介。「手塚治虫マンガ デジタル・ライブラリ」、朝日新聞記事データベース「聞蔵IIビジュアル」から『天声人語』、「The BBC Video Collection」から動画資料の活用による英語学習を提案。



担当者：芸術文化学群3年

井上 花蓮



第3回『にっぽん方言旅行』

6月26日(月) 12:15～12:45

内容…日本語辞典に収録されている方言に焦点を当てながら、データベースの使い方を説明。主に「JapanKnowledge Lib」の中にある方言辞典の使い方について、アクティビティを交えながら紹介。



担当者：リベラルアーツ学群4年 小川口 彩
リベラルアーツ学群3年 太田 航平

<イベント参加者のコメント>

- ◇具体的な操作も順を追って説明があったので分かりやすかった。
- ◇電子ブックについて、細かい説明が聞けて良かったです！ありがとうございます！
- ◇今回初めてDB(※)の存在を知ったので、活用していきたい。

<担当学生からの感想、考えたことなど>

- ◇やることや作成するものが多く大変でしたが、実際に開いた後は達成感がありました。私自身も、DBへの理解などが深まったと思っています。
- ◇目的を達成するまでの計画力がついた。
- ◇参加者の確保が難しかった。
- ◇こういったテーマなら参加してくれるだろうか考えるのが一番大変だった。
- ◇企画を練る段階からプレゼンテーションまでの一連のプロセスが学べ、イベント企画の参考になった。

図書館のデータベースは、図書館HP (<http://www.obirin.ac.jp/library/>) の「データベース学内」または「データベース学外」からアクセスできます。

(図書館メディアセンター 大谷 亜紀)

 図書館からのお知らせ

図書館メディアセンターの利用者サービス



三到図書館は1970（昭和45）年に竣工、すでに50年近くの年月が経過してかなり手狭になっています。1953（昭和28）年から刊行されている『日本の図書館』1971年版（日本図書館協会、1971）によれば、竣工当時（1970年度）の蔵書数は55,358冊でした。現在の蔵書数は約57万冊（図書・製本雑誌・視聴覚資料）と増加しており、そのうち三到図書館と四谷キャンパス（千駄ヶ谷）図書室に、開架・閉架併せて約30万冊を収容し、残りの約27万冊を外部倉庫に保管しています。

大学が毎年行っている「学生満足度調査」でも、「図書館が狭い」「席が足りない」「バリアフリーに対応していない」「エレベータがほしい」というコメントが毎回寄せられています。蔵書の充実や利用者サービスの向上を図ることは図書館でも可能ですが、施設・設備の改善は図書館だけでできるものではありません。しかし私たち図書館職員も限られた設備のなかで、少しでも学生の学習環境をよくしようと常に改善に努めています。

2016年4月には3階の閲覧室を大幅に改修しラーニングcommonsをオープンしました。それまでの古い閲覧席から可動式の机に変更し、ホワイトボードも設置して個人学習からグループ学習に対応できる環境にしました。3階は会話をしてもよいスペースとし、その代わりに1階と5階の閲覧席は個人で静かに学習するスペースとしました。

学生たちには「机は自由に動かしてよい」「迷惑にならない程度に声を出して話し合いをしてよい」「ホワイトボードも自由に使ってよい」とPRしましたが、当初は以前と同じように静かにひとりで学習する学生が目立ちました。こちらの「自由にしてよい」という指示はかえって分かりにくかったのかもしれませんが。具体的なモデルを提示したほうが、学生には使い方をイメージしやすかったのだらうと思います。それでも少しずつですが、机の上に図書館の本やノートを広げ、ノートパソコンやホワイトボードを使いながら、グループ学習をする光景も見られるようになり、最近ではここでゼミの授業も行われるようになりました。

1階でも長らく旧分館時代の古い閲覧席を使用していましたが、それを半分撤去して、3階と同様の可動式机に置き換えました。個人用の席を好む学生が多いので、できるだけ一人用の机（キャレル）を増やし、広い机には間仕切りを後付けするなど工夫しています。5階にはすべて間仕切りを設けましたが、例えばそれまで6人がけの机に3人しか座らなかったところが、間仕切りを設けたせいで4～5人が座るようになり稼働率も高まりました。とはいえ学生数に対して図書館の座席数が不足しているため根本的な解決には至っておりませんが、少しでも学生の居場所を増やすために知恵を絞っています。（図書館メディアセンター 課長 佐々木 俊介）



ゼミの様子。ラーニングcommonsにて

図書館ヘルプデスクスタッフからひとこと

今年度から三到図書館のレファレンスカウンターの隣にヘルプデスクを設置しました。図書館の学生サポーターが学生目線で利用者にサービスを行っています。

 芸術文化学群3年 井上 花蓮さん

「図書館には難しそうイメージがあります。でも『ささいなことだけど、こんなこと聞いたら恥ずかしいかな』なんてことでもぜんぜんかまいません。もっと有意義に図書館を使うために、ぜひヘルプデスクを利用してください」

 リベラルアーツ学群2年 長津 日向子さん

「図書館を利用する時に『わからない』『困った』と感じたら、三階のレファレンスカウンターにいるヘルプデスクスタッフに遠慮なく声をかけてください。みなさんの質問に、親切丁寧にお応えします」

みなさんと同じように授業に出て、レポートを書いたり、試験を受けたりしている学生たちです。図書館のいろいろなサービスをぜひ活用してください。

● 編集後記 ●

旧聞に属する話だが、又吉直樹の芥川賞受賞作『火花』は公共図書館で予約が殺到し、1年待ち2年待ちという報道も話題となった。本学図書館の蔵書にも同時期に10件近く予約が入ったのだが、実はこの作品の初出は『文学界』2015年2月号、芥川賞受賞作として『文藝春秋』2015年9月号に全文掲載されており、どちらも図書館の雑誌コーナーに所蔵がある。ところが学生はこれに気がつかない。というより雑誌に掲載されてから本が出版されるという仕組みを知らないのだろう。学生たちが予約を待っている間、雑誌のバックナンバーはいつまでも書架に眠っていたが、やがてこれに気がついた学生が数名現れた。なかなか目ざといことである。その後も文学賞を取った人気作が掲載された雑誌をチェックして、いち早く借りて読んでいる学生もいるようだ。やはり仕組みを「知っている」ことは強みでもある。（S）